

府中市都市計画マスタープランパブリックコメント

【実施概要・回答者数】

実施期間 : 令和4年12月19日(月)～令和5年1月20日(金)

素案の閲覧 : 市役所3階都市デザイン課窓口、上下支所窓口、ホームページ

意見の回答方法: 郵送、メール、FAX

回答者数 : 9名

| ページ数 | 項目 | 意見概要 | 市民からの意見・質問・修正案等への考え方・対応 |
|---------|---|--|---|
| 序-4 | ②コンパクトなまちづくりの必要性 | 昨今、ロシアのウクライナ侵攻に伴い、大きく表面化しているエネルギー依存の仕組みの問題があるため、「環境意識やエネルギー問題の高まり」と記載してはどうか | 序-4ページにて、「地球温暖化をはじめとした環境問題やエネルギー問題への世界的な関心が高まっていることから」と新たに記載いたしました。 |
| 1-15 | 8 市民による府中市の現況認識と課題(市民アンケート) | アンケートの対象・方法・配布時期・回答数などが公開されていないので、記載してほしい。 | アンケートの対象等の情報については、実施概要として新たに掲載いたしました。 |
| 1-31 | (2)企業流出による経済力の低下への対策、生産活動ができる基盤の確保 ①新たな産業用地の確保や操業環境の維持 | 新たな産業用地の確保について、南北道路の沿道などだけではなく、市中心部の活性化を図るためには、駅周辺などに多種多様な第三次産業(商業、IT系企業)なども誘致することも重要であると考えている。そのことを記載してはどうか。(工業×商業) | ご意見いただきました市中心部への第3次産業の誘致については、市中心部の活性化において必要なことと捉えています。本計画では、3-2ページ(1)①生活中心街への生活支援施設の集積 において、「様々な分野の民間企業の参入を促進することで更なる活性化を図ります」と位置付けました。 |
| 1-32 | (3)中心市街地の賑わいと住宅団地及び集落市街地のあり方 ②市の生活中心拠点の賑わいと交流の促進 | 新たな魅力の創出について、現在ある商業施設の更なる活用と活性化といったワードをいれてはどうか。 | 魅力の創出に向けて、既存施設の活用は必要であると考え、1-32ページ(3)②市の生活中心拠点の賑わいと交流の促進において「新たな魅力の創出に向けた整備・活用を進めていく」と位置付けました。 |
| 1-34 | (5)激甚化する災害への対策、安心安全な都市づくり ①災害に強い都市づくりの推進 | 災害対策は、ソフト面での対策も必要とあるので、「避難物資を運搬するドローンの活用」も記載したらどうか。 | 特に道路が脆弱な集落については、災害時孤立する可能性も高いため、3-32ページ(5)情報通信環境の整備やまちづくりへのICTの活用 において、「災害時の情報の取得・共有が容易なインターネット通信環境の整備や孤立した集落への避難物資の輸送に係るドローンの活用」として位置づけをしました。 |
| 2-3～2-5 | 都市づくりの目標 | 都市づくりの目標について内容が分からないので、具体的な数値目標をあげ、達成計画を検証すべき。 | 計画づくりにおいて、数値目標や達成計画の設定・検証は重要と認識しております。数値目標については、総合計画や、産業ビジョン等の各分野の計画にて掲げており、都市計画マスタープランは、これらの各分野のビジョンを実現するための市全体の都市計画に関する方針を示しているため、特定の項目に対する数値目標は設定しないこととしております。 |
| 2-11 | 将来都市構造図 | 将来都市構造図の上下と御調分かれが下川辺になっている。上下から市内に通う人はどの道を通ったら良いのか。上下は府中市内から見放されたとも思える図面だ。 | 上下・御調分かれについては、現状通り府中上下線を上下と府中をつなぐ重要な幹線道路として、道路ネットワークを構築していきます。 |
| 3-8～12 | 2 交通施設等整備の方針(道路ネットワークづくり) | 上下町と合併して18年経過しますが、なかなか一体化が進んでいない。そこで、上下と府中市街地を30分以内で行ける代替道路「坂根トンネル」建設の計画を復活させることを追加いただきたい。そうすれば周辺地域の住民の利便性向上だけでなく、神石高原・庄原・三次市との経済的交流も活発になると考える。また、防災の観点からも府中上下間の代替道路が必要では。 府中市都市計画区域と上下都市計画区域との連携強化を図り、府中市の一体化を進めていく必要がある。そのためには、移動時間の短縮を図るための道路整備が不可欠でありその観点が不足している。 | 旧府中市と上下町については、一体的なまちづくりを進めていくためには、ご意見いただきました通り、災害時の代替道路の整備や所要時間の短縮等は効果的であると思われます。都市計画マスタープランでも、府中上下間は府中市の一体化を進めていくための必要なネットワークであると捉えています。今後10年間については新たな道路整備ではなく、各集落と生活中心街を繋ぐ府中上下線を重要な幹線道路として捉え、強靱化を進めていきます。 |
| 3-14 | (5)次世代公共交通の導入 | ICTの活用には、乗り方などの分かり易さによる利便性の向上といった効果もあるため、そのような記載もあった方がよい。 | ICTの活用によって、乗りやすさ・利用しやすさが向上する一面もあるため、3-14ページ(5)次世代公共交通の導入 において、「公共交通が利用しやすくなるようなサービスの向上に向けて、自動運転やMaaS等AI、ICTを活用した交通システムの導入について検討」として位置づけをしました。 |

| | | | |
|---------|---------------------------------|---|---|
| 3-16 | 4 公園緑地整備の方針(憩いの場づくり) | <p>出口川河川敷は平成30年7月豪雨で浸水被害が発生しており、現在も川底に土砂が埋まり続けている。そのような場所に工作物を設置することは危険ではないか。</p> <p>出口川河川敷は、適切に管理された草原が今以上に連続して広がるよう誘導する。出水に見舞われる河道でもあるため、都市公園や遊技場として整備すべきではなく、日常の自然体験に支えられた、こどもの成長に資する場所であってほしい。</p> | <p>河川空間の創出にあたっては、河川敷とその周辺に危険が及ばないよう整備していく必要があると考えており、これまでも安全に配慮しながら利活用を進めてまいりました。出口川河川敷を含む河川空間の創出においては、河川敷とその周辺の安全に配慮したうえで行っていきます。なお、安全の確保にあたっては関係機関との協議を行い、整備を進めていきます。</p> <p>また、「水とみどりのネットワーク」として、より一層子どもたちが自然に触れることのできる空間の整備を進めていきます。</p> |
| 3-19~20 | 5 農地と森林の整備、保全、活用の方針 | <p>本山町で行っている農地と里山の管理活動を市として助言・支援できる地域指定を行うことを期待する。</p> | <p>第3章 5.農地と森林の整備、保全、活用の方針にて、農地の活用推進について位置づけをしております。本山町の里山における管理活動については、広島県と協力をしながら、現在行っている活動支援を引き続き進めていきます。</p> |
| 3-20 | 5 農地と森林の整備、保全、活用の方針 | <p>平成30年豪雨では、荒廃した人工造成林が起因する土砂崩れが起こり、府中市でも大規模な災害を引き起こしました。そのため、荒廃した人工造成林への対応として新たな森林管理システムの導入を図るなどの文言を入れるべきでは。</p> | <p>森林の適正な管理については、現在行っている施策等を踏まえ、(4)森林の適正な保全 として新たに位置づけをしました。</p> |
| 3-23 | (3)環境に配慮した都市づくりの推進 | <p>公害対策について都市づくりの目標に入れてください。</p> | <p>公害防止対策については、市民の快適な住環境を形成していくにあたり、とても重要であると捉えております。そのため、3-23ページ(3)①自然保護や環境と調和した生活環境の整備において、「自然環境の保全や公害防止対策を推進します」と位置づけています。</p> |
| 3-25 | (1)安全・安心な基盤整備 ③浸水想定区域等における対策 | <p>府中市は、芦田川等の氾濫により浸水する区域が多くあり、5m以上浸水する箇所もある。そのため、浸水等による住宅地等の被災を防止するため、建築基準法において条例を定め、災害危険区域を検討してはどうか。また、宅地の嵩上げと合わせて「ピロティ化」も検討してはどうか。</p> | <p>ご意見のとおり、災害に備えた土地利用規制は、人家の被害を未然に防ぐために効果的な手法であると捉えております。しかしながら、浸水被害の想定は市街地の大部分を占めており、災害危険区域として指定することにより、居住できる場所がかなり限定されてしまうため、区域指定は難しいと考えています。そのため、浸水等の災害時にいち早く避難行動が取れるよう、災害に備えた避難行動の強化を図っていきます。</p> <p>なお、浸水に備えた建築規制については、3-25ページ③浸水想定区域等における対策 にて「特に甚大な被害が出ると想定される地域においては、(中略)建築制限を行う等、住宅の被災を防ぐための取組について検討」として位置づけをしております。必要に応じて規制等も検討してまいります。</p> |
| 3-25 | (1)安全・安心な基盤整備 ④住宅・建築物の耐震化の促進 | <p>体制の構築とあるが、住民に必要なのは体制と情報であるため、迅速で正確な情報発信を図ります。と言う文言も必要ではないか。</p> <p>土砂災害特別警戒区域等の特別警戒区域においては、立地適正化計画の居住誘導区域から除くことが法的に示されている中で、ため池においても浸水想定区域があり、重要ため池においては耐震化等の対策を広島県が行っている。そのため、ため池の耐震化を引き続き推進する。と言ったことも必要ではないか。</p> <p>土砂災害特別警戒区域や急傾斜地等のいわゆるレッド区域においては、建築制限が発生し建物の建て替えが困難な状況となっている市街地もある。府中市は平地が少なく、住宅用地等の確保が課題となっている街でもあり市街地の減災のため、このような区域を減らす対策として、砂防ダム、治山ダムの設置や急傾斜地対策を推進することも重要ではないか。</p> | <p>迅速で正確な情報発信については、重要であるため、3-25ページ(2)避難行動の強化 に位置付けました。</p> <p>ため池の耐震化については、危険性等を判断し、現在事業が進められていることから、3-25ページ③浸水想定区域等における対策 に位置づけをしました。</p> <p>土砂災害特別警戒区域等については、逆線引き(市街化区域内の土砂災害特別警戒区域を市街化調整区域に編入)や対策工事などで住まいの安全を確保してまいります。砂防ダム等の対策は必要に応じて行ってまいります。</p> |
| 3-32 | (5)情報通信環境の整備やまちづくりへのICTの活用 | <p>社会基盤のオープンデータ化を推進し官民が連携して市街地の活性化を図るなどの文言があった方がよいと考える。</p> | <p>積極的なデジタルデータの活用やデータのオープン化が求められていることから、3-32ページ(5)情報通信環境の整備やまちづくりへのICTの活用 において、「社会基盤のオープンデータ化を推進し、官民が連携したまちづくりを進めていきます。」と位置づけをしました。</p> |

| | | | |
|---------|-----------|---|--|
| 4-27～31 | 地域別構想 地区5 | 上下高校と福塩線のどちらも残すために、上下高校の存続にまずは力を注いでほしい。 | 上下高校・福塩線は上下町の大切な地域資源として、互いに密接に関係していることから、存続に向けた働きかけを行っていきます。 福塩線につきましては、広域的な移動を支える重要なネットワークとして維持を図っていきます。 |
| 全体 | | 「ものづくりのまち」のように産業の役割をことのほかに強調するのはやめるべき。 | 府中市は、市街地が豊かな自然と古くからのものづくり産業が近接した特徴あるまちであると捉えており、総合計画の基本目標では「力強い産業が発展するまち」を掲げております。また、自然や産業以外にも、歴史・文化や教育・子育ての取組等についても特徴を持っており、様々な魅力を持ったまちであると捉えており、これらをさらに活かしたまちづくりが必要と考えております。 |